



全国女性消防団員活性化

青森大会招致を決議

東北地区消防連絡協議会



題 字  
初代会長 松野 盛吉  
定 価 1部 48円  
(購読料は年会費に含む)  
発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二七年度東北地区消防連絡協議会は七月一六日(木)、福島県郡山市の「郡山ビューホテルアネックス」で、東北地区七県(新潟県を含む)の消防協会から会長、副会長、事務局員ら四三名が出席して開催されました。秋田県消防協会からは中田会長、草薙副会長、海野副会長など六名が参加しました。

連絡協議会では、前年度決議事項について岩手県消防協会から処理報告が行われた後、議事に入り、各県から提出された要望事項などについて熱心に協議され、「全国女性消防団員活性化大会」の青森県招致について、関係機関へ要望することとしました。これまでの例では、次の東北ブロックでの開催は平成三二年度となりますが、前倒して実施したいとの要望がありました。

なお、本協議会は来年度秋田県で開催することに決まりました。

平成二十七年全国統一防火標語

無防備な 心に火災が かくれんぼ

前年度決議事項の処理報告

消防団員の確保対策と

処遇の改善について

〔岩手県消防協会 大森会長報告〕

消防団員の確保対策と処遇の改善について、昨年の一〇月七日に岩手県市長会会長に、一〇月二九日には岩手県町村会会長に対して、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」成立後の実質初年度である平成二七年度予算に報酬及び出勤手当の引き上げなどについて各市町村と連携を取りながら実施されるよう要望しました。

また、消防団の装備の充実については、地域の災害状況に応じて、装備の優先度により計画的に改善を図っていたべくよう要望しました。

更に、岩手県知事(県総務部長)に対しては、昨年の一二月一九日に消防団員の処遇改善等について、各市町村に対して積極的に助言等を行っていたべくよう要望しました。

要望時期が遅かったこともあり、今後更なる要望活動を継続する必要があると考えております。

協議事項

一 全国女性消防団員活性化  
大会 青森県招致について

《青森県》

青森県内の女性消防団員から、「全国女性消防団員活性化青森大会」招致の要望がありました。

これまでの例に例えば、東北ブロックでの開催は平成三二年度となりますが、できれば前倒して実施したいとのことであります。

また、前倒して実施できない場合でも、次に東北ブロックで開催する場合は、青森県で実施したいとの要望です。

このことについて、各県のご意見をお聞かせ願います。

なお、日本消防協会に問い合わせたところ、平成二九年度までは開催ブロックが決定済みとのことでした。

■主な各県の意見等

【岩手県】

東北では、岩手(第三回)、山形(第一〇回)、秋田(第一八回)で開催しており、次の開催地をこれまでの経緯等を確認の上、協議する必要がある

と思います。青森県内の消防団員の要望を受けて青森県で開催を希望するのであれば、岩手県としては、未開催県で開催を希望する県の開催を推薦したいと思います。

【秋田県】

大会を主催する日本消防協会など関係団体の了解が得られるならば、青森県での開催がいつの時期であっても良いと思います。

【山形県】

平成一六年度第一〇回山形大会開催の折には、皆様方からの多大なるご支援とご協力を頂戴しましたことに感謝申し上げます。

青森県招致につきましては、大いに賛成であり全面的に応援させていただきます。

二 消防学校との消防団員教育  
《宮城県》

宮城県消防学校では、宮城県消防学校教育基本計画(第一期計画期間平成二七年度〜平成三二年度)を定め、その計画に基づき、基礎教育、専科教育、幹部教育、特別教育が平成二七年度から実施されることとなりました。

従来、宮城県では、消防団員に対する訓練研修は、当協会が独自か消防学校と共催、若しくは、日本消防協会からの委託事業として実施して

いましたが、今回の基本計画では、女性消防団員研修が消防学校独自の研修となるなど、当協会事業に支障を及ぼすことも想定される事態となっており。つきましては、各県の実態をお聞かせいただきたいと思います。

■主な各県の意見等

【岩手県】

岩手県消防学校では、岩手県消防学校運営協議会を開催し、教育訓練計画等を協議しており、会長及び役員一名の計二名が当協会から構成員として会議等に出席し協議を行って

【秋田県】

本県では、消防学校と協会は互いに連携して事業を進めておりますので、特段の支障はありません。

三 消防団員に対して行う

「基礎教育」について

《秋田県》

消防組織法第五二条において、消防団員には消防に関する知識及び技術の習得並びに向上のために、その者の職務に応じ教育訓練を受ける機会を与えなければならないと定められており、本県では毎年消防学校において、消防団員としての経験が概ね三年に満たない者を対象として

「基礎教育」を実施していますが、受講者が少ない場合もあり訓練に支障をきたしております。今後の参考にしたいので、各県の実施状況をご教示願います。

■主な各県の意見等

【岩手県】

初任消防団員の教育訓練は受講者が少ないこと等により、消防学校では実施していない。

【宮城県】

協会が県からの委託を受けて、初任消防団員教育として協会地区支部単位で実施している。

【福島県】

消防学校で行う基礎教育未受講者を対象に、構成消防本部と消防学校が連携して必要な教育訓練を現地で実施し、現地教育訓練履修者に「基礎教育修了書」を交付している。また、本年度から現地教育訓練の回数を増やしている。

【福島県】

基礎教育は、消防学校が県内二〇支部の現地において、校外教育を三年に一回の周期で行っている。

なお、県協会では、県から委託を受けた基礎教育は行っていない。

四 全国消防操法大会の県

代表チームの選定について

《福島県》

福島県では、二年に一度開催される全国大会出場チームは、以前よ

り、夏場の八月下旬に開催する各支部代表による県大会優勝チームが、代表として出場しております。

県大会に出場するにあたり、五九ある各消防団は、それぞれの地区において予選会が開かれるため、その年の公務災害の件数(県市町村総合事務組合調べ)は増加しております。

また、かつて、大会出場のため厳しい練習に対して、団員の親から当協会あてに苦情まがいの手紙が寄せられたことや、団員は仕事と訓練の両立に悩むなど、事実、団員確保の一つの障害となつていとの話も耳にしております。公務災害は少ない方が良いに決まっていますが、団員が多く入団してくれるに越したことはないわけであり、だからといって消防団として習得した規律、操作要領、行動、動作等の成果を競う場も必要なこともまた事実であると考えます。

については、各県協会の全国大会出場チームの選考方法、出場にあつての弊害の有無、及びそれらに対する各県協会のお考えをお聞かせ願います。

【秋田県】

本県では、毎年九月上旬に開催する県大会で優勝したチームが全国大会に出場しています。出場にあつての弊害に関しては、今のところ協会には聞こえてきておりません。

# 第11回 消防団員 意見発表会(一)



皆川 高広  
北秋田市消防団員  
勤続十五年  
建設業

新潟県出身。結婚を機に旧森吉町に移住、操法では持ち前の運動能力を発揮し活躍を見せている。

## 「消防の未来」

私が消防団に入団したのは、地元新潟で大工の見習いとして働き始めた年で、今年で一五年目になります。入団するまで、正直消防団には全く興味もなく、ただ誘われるがまま軽い気持ちで入団したので、最初はあまり気が乗らず、仕事を理由に参加をしないこともありました。

そんな中途半端な気持ちでいた自分に、ある変化があったのは、数ヶ月が過ぎ操法大会の練習が始まった時でした。先輩の機敏な動き、大きな声、一生懸命に取り組む姿を見た瞬間、凄いな！カッコいいなと思えたのです。入団したばかりの自分も小型ポンプ操法の一番員の補欠として練習に取り組みました。先輩に負けじと夢中になっていくと同時に、操

法の厳しさ、難しさが身にしみました。練習以外にも消防団を中心に部落の夏祭りや、小学生とともに火の用心を行ったりと、徐々に消防団員として、溶け込んでいき仕事も現場を任せられるようになった頃、結婚を機に秋田に住むことになり、地元を離れることになりました。今までお世話になった仲間と別れ、新天地での生活は不安でいっぱいでした。

引っ越して来て間もなく、近所に住む消防団員に入団を誘われました。今までの消防活動で過ごしてきた楽しい思い出がよみがえり、秋田でまた消防団員として頑張ろう！自分の中の消防魂にまた火が付いたのです。新潟で出会った仲間も、今所属している分団の仲間も同じ熱い気持ちを持っている人達ばかりです。そんな消防団であります、色々な問題がある



中の一つに、新入団員の確保があります。二十代の団員が少なく、興味を持つていただくことは難しいことです。自分が入団した当初は、放水訓練、出初め式となると子どもからお年寄りま

で沢山の見学者がいましたが、年を重ねるごとにその人の姿も少なくなってきたように思います。

これからの消防団が心配な方も多いのではないのでしょうか。もつと沢山の人間に消防の素晴らしさ、楽しさ、必要さを伝えて行くために団員が一つになり、地域住民とともに考えていかなければならない問題だと思えます。実際、消防団の活動は、どのようなことをしているのか、詳しく答えられる人も多くはないでしょう。火災の時は消防署、行方不明者、防犯の時は警察署と、消防団の姿は世の中の人には、印象が薄いのかも知れません。

火事が複数箇所が発生した場合、台風や地震といった災害があった時は、消防署、警察署、自衛隊とともに昔から活躍してきた団体です。で、団員である以上は誇らしく思うべきですし、これから若い人達に伝えていかなくてはならないと思えます。ボランティア団体ということもあり興味を持つてもらうことは難しいと思えますが、全国では難しい問題に取り組んで、成果を上げていく地域もあるそうです。私達が住む地域の方達に興味を持つてもらうには、どうしたら良いのか。もつと深く考えていかななくてはならない問題だと思えます。

私がポンプ操法を練習している姿を、五才だった息子が見ていたと

き、息子が肩手を挙げて「放水始め！」と、可愛らしく真似をした姿に、とても嬉しく思ったことがあります。そんな小さな、些細なことでも嬉しく思える気持ちを忘れることなく、消防の楽しさ、難しさをこの先入ってきた新入団員に伝えていけたら幸いですし、これからの消防の将来のため、地域のために皆さんとともに歩んでいけたら幸いです。



西坂 高生  
三種町消防団員  
勤続十五年  
会社員

小型ポンプ操法二番員として日々熱心に技術習得に取り組んでいる、男の子4人のパパでもあり、子育てに奮闘中です。

## 「感謝と使命」

まずは、発表を前にこの伝統ある大会に三種町を代表して出場させて頂いたことに三種町消防団長をはじめ関係者の皆様にご場をお借りしお礼申し上げます。

さて、私が消防団に入団するきっかけは、町内の祭りの準備を青年部で行った後の懇親会でした。当団の副分団長から勧誘を受け、妻や両親に相談することなく、その場で悩む

ことなく『いいですよ。』と承諾しました。今考えると、幼少の頃近所での火災現場で活躍する消防隊への憧れがあったからだと思います。

入団一年目、私を含め世代交代で、指揮者以外すべて小型操法未経験の団員で町の大会に出場することとなりました。私は一番員を務めることになり、四月から六月の大会に向け練習が始まりました。何一つ分からぬ私は、分団の諸先輩、消防署員の方々に多くのご指導をいただき練習に励み、町の大会では初めての出場にも関わらず優勝し、郡市大会出場を果たすことができました。

また、初めて現場に出動したのが入団から二年目、秋田県内に甚大な被害をもたらした平成二五年九月一六日、台風一八号の大雨による水防活動でした。鵜川川の増水により招集され、川の水位を警戒していましたが、瞬間に氾濫し住宅へ流れ込みました。八竜支団の他の分団から応援があり、地域住民と協力し土嚢を作り住宅へ届け積み上げるなど懸命な作業を行いました。住宅床上・床下浸水、町道が冠水するなど誰もが今まで経験したことのない事態が町を襲い、人間は自然災害の前では本当に無力なもんだと感じました。

このような経験を通して、入団する前では考えられないほど多くの人と出会うことができました。同時

に、地域の現状を考え思いうことがありません。それは、社会構造・就業構造の変化、核家族化、県外への若年層の流出や個人の価値観の多様化が進む中で、地域における連帯感が希薄化するなどの要因による消防団員の減少と後継者問題です。

県内をはじめ、全国的に少子高齢化が進む中、秋田県では年間一万人以上が減少し出生率の低下が顕著に表れております。当分団では、私が入団してからの四年間入団者がいない状態です。このような現状を打破するために今まで以上に地域との関わりを強化し、行政と連携を図り消防団の活動、魅力を発信するとともに、一住民として地域の文化伝統を継承し地域コミュニティの活性化に貢献できるように人間性を高め、地域住民から信頼され愛郷心を持つ同年代や若年層が入団しやすい環境を構築していくことが私の使命だと感じます。

早いもので入団から今年で四年目を迎えます。今まで活動してこられたのは家族の理解があ



ったからこそだと思っております。私には子どもが四人おります。全員男の子、家はいつも賑やかです。大会が近づくと操法の練習に夢中になり、仕事が終わりに育児の手伝いも一切せず、練習や練習後のミーティングへ行く私を、妻は快く送り出してくれます。本当に感謝してもしきれません。

また、消防団へ導いて頂いた分団長をはじめとする諸先輩方へ改めて感謝申し上げます。この感謝の気持ちを忘れることなく若輩であります。自分に与えられた使命を全うできるように、日々消防団員として精進することを約束し、ご臨席の皆様地域の無火災・無災害をご祈念申し上げます。ご静聴ありがとうございます。



川崎 健次  
・大瀧村消防団 団員  
・勤続十五年  
・農業

小型ポンプ操法では、優秀な成績を収め、技能の向上に大きく貢献、後進の育成・指導にも、その人柄から、厚い信頼を得ている。

「消防団活動をとおして思うこと」  
今から二〇年前、家業を継ぐため

帰省して直ぐ、幼少期にスポーツ少年団で指導してくださった方に、「消防団に入らないか」と誘われました。どんな組織か全く分かりませんでした。小学生時代のコーチに言われたので、反射的に「はい」と答えてしまいました。

後で知ったのですが、そのコーチは当時の団長さんでした。何も知らない、空っぽな状態での入団となりました。当時の消防団は、ポンプ車操法の全国大会初出場を悲願としておりました。初めての出務が操法練習の手伝いだったと思います。

見たことのない競技に、真剣に打ち込む人たちの光景を目の当たりにし、えらい所に入ってしまったと思いました。先輩達は優しく接してくれ、まだ若く、世間知らずの自分に消防だけではなく、様々なことを教えてくれました。更にお酒も沢山ごちそうしてくれました。

帰郷して間もなくだったので、温かく迎え入れてくれた消防団に、自分の居場所を見つけ、団員としての活動を始めることができました。

少しずつ使命感も芽生えてきましたが、どちらかといったら、楽しさ優先の活動でした。そんな意識を少し変える出来事が起こります。近所の住宅火災です。その日の朝は、明け方まで仕事をしていたので、遅くまで床に就いておりましたが、鳴り

響くサイレンに起こされました。火事だと思いベッドから飛び起きると向かいの家の屋根の向こう側から黒い煙が勢いよく上がっているのが見えました。直ぐ近くです。寝起きで思考が働かなかったせいなのか、いち早く現場に行くことが大事だと思っただけでした。普段であれば作業服に着替え、分団のポンプ小屋まで行き仲間と共に現場に向かうのですが、寝巻きのスウェット姿で、火柱が上がると建物の前に駆け付けてしまいました。現場には分署のポンプ車一台が到着し放水の準備をしていました。火の勢いが強く、一刻も早い消火が必要でした。独りで何もできずにうろたえていると、近所の方が消火栓の配置ホースを延ばそうと声をかけてくれました。周りにいた何人かの住民の方にも協力をお願いして、なんとか放水を始めることになりました。私は筒先を持ち、無我夢中で火に向かいました。しばらくして到着した分団の人にその場を代わってもらい、その場を離れると、火消し作業の緊張感が静まることに、様々な気持が湧いてきました。

寝巻きのまま濡れになり寒さで少し震えながら、自分のとった行動を反省しました。後先考えず冷静さを欠いたことです。二人以上で行動することは常に言われておりましたが、それができませんでした。当たり前のことですが、消防人としての使命感を持っていても、一人では水は揚げられませんし、一人の誤った判断の結果、災害が更に大きくなるかもしれません。自分自身の安全も確保できないかもしれません。就寝時、身近で起こった災害に際し、後先も考えず行動した自分にとっても不安を感じました。しかし、今回は住民の方々の助けによって消火活動ができました。毎年行われる防火訓練の賜物です。

地域の住民と消防団との連携が成されたと思うと感謝の気持ちで一杯になりました。火災は火元の一軒の全焼で終わりました。自分の心に、自身への反省と地域住民への反省、加えて地域住民への感謝の気持ちが残りました。

その一件があつてから、楽しさ優先の活動から少し気持ちが変わりました。現場で適確な判断や行動ができるよう、意識を持って活動するようになったのです。運動する能力は高くありませんが、操法大会の選手も経験しました。仕事の合間を使っての操法訓練は大変ですが、消防団員の結束が高まる良い機会です。ただ、有事の際、適確な判断、行動ができないのではという不安は常に残ったままです。消防団員としての課題がもう一つあります。

それは、地域住民との防災訓練の時、妻から「住民との防災に対する温度差がある。」と指摘されたこと



★第六八回秋田県消防大会の  
司会進行担当を紹介します★  
(上)北秋田市消防団 佐々木久子さん  
(下)北秋田市消防団 神成みゆきさん

です。マンネリ化しがちな訓練だけでは、温度差も生じてしまうのでしょう。その差を縮める為には、行政に頼るだけでなく消防団員自らもつと地域住民に近づかなければいけないと思います。

具体的には、機会があれば防災について、伝え聞いたこと、自分の思っていることを話すということだと思います。災害が起きていない平穏な時に、対極の話をし、共感してもらふことはとても難しいことですが、地道な努力をすることが大事です。地域全体の防災力もあがり、更に消防団の活動に関心を集め、信頼を得ることに繋がると私は思います。

森田ポンプ	ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管	消防被服一式
各種消火器	消防機器一式

株式会社 能代消防センター 立

株式会社 協

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献！

**消 防**

ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

**設 備**

火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

**猿田興業株式会社**

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)  
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

## 第69期教育 初任教

### あきた病院での

### 研修を終えて

秋田県消防学校

第六九期初任教育入校生は二班に分かれ、六月二十九日と三〇日の二日間、由利本荘市岩城の「あきた病院」で研修を行いました。

この研修の感想文が寄せられましたので紹介します。



政岡 沙綾  
秋田市消防本部

私は、南三病棟の筋ジス病棟に行きました。最初に筋ジス病棟について説明がありました。その説明の中で、患者さんに合わせた車イスやナースコールについての説明があり、手が動きづらい人は足でナースコールを押せる仕組みになっていて、凄い工夫だと思いました。

説明の後、患者さんとコミュニケーションを取る時間がありました。最初はうまく話が续かなくて戸惑いましたが、患者さんの出身地に関連することを質問するなどして、段々とコミュニケーションを取ることができました。他にも、一緒にカラオケ

ケをするなど楽しく過ごしました。

今回の病院実習を通して感じたことは、患者さんたちは明るい方が多いという印象を受けました。実習に行つて逆に元気をもらいました。また、患者さんにどのように食事を与えたら食べやすいかなど、終わつてから色々考えさせられました。

病院実習で感じたことをこれから生活に生かし、普段何気なく行っていることを当たり前と思わずに生活していきたいです。



三浦 大和  
大館市消防本部

あきた病院にて六月二十九日は療育指導室長などから病院の説明を、同じく三〇日には実際に入院している患者さんたちと触れ合う機会をいただきました。しかし、オリエンテーションの際にしゃべれない患者さんが多いと聞き、どのように関わるのかわからないと不安を感じて三〇日を迎えたがその考えは杞憂だった。

実際、私が訪れた神経難病病棟の患者さんたちはしゃべれない方が多くいた。それでも看護師さんとは様々な方法でコミュニケーションを取っていた。手を握つてのやりとり、瞬きでの返事をするなど、体の

一部を使つてのコミュニケーションには驚いた。会話だけがコミュニケーションを取る手段ではないことを身をもって体験できた。

今回の実習は患者さんとのコミュニケーションや食事のお世話、散歩など普段は得られないような貴重な体験だった。その中でも患者さんと触れ合い、自分の中に生まれた感情が一番の収穫だと思う。

体に不自由を持ち、人の世話を借りなければならぬ人がいる中で、私は今、健康に暮らせて自分のやりたい仕事が出来ていることを大切に、今後の消防活動に生かしていきたいと思う。



三浦 圭悟  
由利本荘市消防本部

あきた病院での病院研修。研修に行く前は「どう接したら良いのか」「どんな気持ちで臨んだら良いのか」という思いだった。

私は東五病棟で研修を受けた。神経難病の患者が入院しており、その方々と車イスで散歩をした。担当した患者はしっかりとおり、たくさん話すことが出来た。花の話や建物の話、木の話など私にもっと知識があれば色々話の幅を広げられたのに

と思った。また、食事の介助もした。はじめは、ゆっくり自分で食べようと何度も挑戦している姿に感銘を受け、普段、何の苦もなく食事している自分の立場が幸せだと感じた。

今回のあきた病院研修は、自分の成長のためにすごく良い経験だった。患者さんがどのような気持ちでいるのかは、正直わからないと思うが、看護師の患者への思い、熱意が伝わってきたし、半日という短い研修だったが、現在自分が置かれている状況を再認識することが出来た。更に、それと同時に自分の甘さも痛感し、残り三ヶ月の学校生活を悔いのないよう有意義なものにしていきたい。



小松谷 岳瑠  
横手市消防本部

あきた病院へ施設実習に伺った。

最初にオリエンテーションで患者さんの症状について詳しい説明を受け、三つの病棟に分かれていることを知った。それは神経難病病棟、重症心身障害病棟、筋ジス病棟だ。自分が研修したのは、神経難病病棟だった。先ず患者さんに挨拶をし、設備の見学をした。患者さんは、初

めて会う自分たちに笑顔を返してくれた。それが嬉しく、少しでも患者さんのためになることをしたいと思っただった。設備の見学は驚くことばかりだった。患者さんが快適に過ごせる、日々お世話をする看護師の方々が効率良く仕事が出来るとなっていた。障害を取り除く努力には感謝するばかりだった。車椅子での散歩では、患者さんとの会話を愉しむことができた。会話をしたり、景色を見ている時の笑顔が忘れられない。患者さんにとって、この時間は本当に貴重なんだと感じた。

今回の研修では、自分がどれだけ恵まれているかということに身にしみて感じた。歩くこと、食べること、会話をすること…。そんな当たり前のことが、どれだけ幸せなことかはこの先考えていきたいと思う。



藤田 拓真  
能代山本広域消防本部

今回のあきた病院の研修で、私は筋ジス病棟で勉強させていただきました。この研修を通してノーマライゼーションについて少しでも理解し、消防職員としてどんな姿勢で職務に臨むべきか考えることが出来ました。筋ジス病棟では、意識はあるが不

自由、また上手く会話できないといった患者さんがほとんどでした。そのような方を、今後の消防人生の中で救急搬送等する機会があることを考え、施設職員の方々がどう接しているかを重点的に学びました。何をやる時も常に気を配り、ただなれなれしく話するのではなく、名前で呼んだりその人に合った接遇をすることで患者さんを安心させることが必要なんだと思いました。

身体が不自由な中、挨拶を笑顔で返してくれる患者さんを見て、私も元氣付けられ、弱音を吐いていられないと気が引き締まりました。こういった方々のためにも、人として恥じないよう生き、消防職員として公共の福祉の増進に資さなければならぬと感じました。

今回感じた思いを忘れずに消防業務に従事し、温かい気持ちで地域住民と接していきたいです。



伊藤 聡  
大曲仙北広域消防本部

六月二九日、あきた病院で施設実習をさせていただきました。私の班は南第一病棟での実習でした。重症心身障害の患者さんは、私が想像していたよりも不自由で、会話での意

思の疎通がなかなかできませんでした。保育の時間に参加させていただいて、患者さんの気持ちを少しでも理解出来たような気がしました。車椅子が一人一人の体型に合わせた特注品であることや、食事の程度によつてご飯やおかずの固さを変えていたことには驚きました。また、重症心身障害の患者さんは、骨密度が低いため、骨折しやすいということも初めて知りました。会話による意思の疎通が出来ないといつても、身振り手振りで示せば反応してくださいる方もいたため、実際の現場で重症心身障害の患者さんがいた場合は、今回の実習を生かして、患者さんの意図をくみ取れるよう努力したいと思います。

私たちが五体満足で生きているということは幸せなことであり、心身が不自由な方々を支えていくのが私たちの役目であると思います。これから地域を支える消防吏員となるため、精一杯頑張っていきたいと思えます。



山山 梓  
湯沢雄勝広域消防本部

あきた病院での研修では沢山のことを学びました。私は神経難病の病

棟を担当しました。最初に入浴での搬送要領を見学しました。ストレッチャートとスライディングシートを使用して患者さんを搬送するのですが、実際に体験してみるとスライディングシートを引く人と患者さんを押す人のタイミングを合わせなければいけないと感じました。次に、車イスを押す側と乗る側を行いました。初めて乗ったのですが、スピードが出たり、曲がり角を曲がる際怖かったので、車イスを操作する時は、患者さんの気持ちになって行いたいです。最後に昼食介助を行いました。患者さんの目線と同じ高さにしてコミュニケーションを取りながら行うのですが、コミュニケーションを取ることが難しく大変でした。しかし、会話できた瞬間はとても嬉しかったし、どうしたら自分の伝えたいことが伝わるのかと考えていくのが楽しかったです。

今回、経験したこと、今後の救急活動に生かしていきけるよう、日々勉強していきたいと思えます。



支部情報アラカルト

支部の消防訓練大会が

開催されました

美郷町消防団



真剣な眼差しでの小型ポンプ操法

去る七月一八日、大仙市雄物川河川緑地運動公園にて開催された「秋田県消防協会大仙仙北美郷支部消防訓練大会」に出場してまいりました。当日は、絶好の消防大会日和で、各市町の大会を勝ち抜いた精鋭団員が一堂に会すなか、本町消防団も出場選手や応援の幹部など総勢一〇名が熱戦を繰り広げ、日頃の訓練成果を存分に発揮できた大会となりました。

となく支部連覇を達成!! 操法開始前に雨が降り出すというコンディションの中、足場の悪さにも動揺せず、見事な操法を行いました。

第二分団長は、「地域住民の生命と財産を守るために行っている日々の訓練であるが、このように大会でも果を挙げられたことは、団員にとっても大変励みになる。今後も更なる訓練を積み重ね、地域の安全安心のため、また、大会での上位入賞を目指して取り組んでいきたい。」と抱負を語っていました。

さあ、各支部代表の皆さん!次は聖地「秋田県消防学校」での全県消防操法大会です。控えめに晩酌する日々がもう少し続きますが、地域の安全安心のために、もう一踏ん張り頑張ろうではありませんか!

我が美郷町消防団も大仙仙北美郷支部代表の名に恥じないよう、「全県優勝」を目指して頑張ります!



雨のなかでの規律訓練

〔情報提供 大仙仙北美郷支部〕

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

Table with 8 columns: Category, Heisei 27 July, Heisei 27 Total, Heisei 26 July, Heisei 26 Total, Heisei 26 Annual Total, Comparison July, Comparison Total. Rows include Building, Forest, Vehicle, Other, Total, Deaths, Injuries.

第52回 秋田県消防操法大会開催のお知らせ

秋田県と秋田県消防協会は、消防団員の消防技術の向上や士気の高揚、消防活動の充実強化を図るため、秋田県消防操法大会を開催します。

出場隊は各支部の予選を勝ち抜いてきた精鋭隊ですので、熱戦が期待されます。

多くの方々の観戦をお待ちしております。

競技種目 小型ポンプ操法、ポンプ車操法

開催月日 平成27年9月4日(金) 午前10時から

開催場所 由利本荘市岩城

「秋田県消防学校 放水訓練場」

トーハツ消防ポンプ モリタ自動車ポンプ 消防被服全般 秋田県代理店 総合防災設備センター

株式会社 高義商会

- トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕力ギ

秋田県横手市寿町1番28号 TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
トーハツポンプ
各種消防機械器具
消防設備保守点検
キンパイホース
シバウラポンプ
各種消火器

ホームページ http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp